心配される大地震・大津波に備えて！

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震津波避難対策強化地域に指定

北海道は、令和３年７月に国の最新の津波断層モデルを基に「太平洋沿岸の津波浸水想定」、令和４年７月に「被害想定」を公表し、国は「地震防災対策推進特別措置法」を改正しました。

法に基づき今年９月に白糠町は「地震津波避難対策特別強化地域」に指定されました。

問い合わせ先　地域防災課地域防災係 ☎01547-2-2171 内線(222)

20分で避難！逃げるが勝ち！

白糠町は、これまでの津波指定避難場所や確実に避難情報を伝えるための屋外スピーカー、戸別受信機の整備、白糠学園や庶路学園、消防庁舎をできるだけ津波被害のリスクを低減するために移転するなど、数々の防災対策を推進してきました。

また、防災教育事業などで「20分以内に津波指定避難場所へ！」という避難の呼び掛けも行ってきました。

避難の原則は徒歩で**「いち早く安全に高台に避難する」**です。これまでと同様に「津波指定避難場所」へ速やかに避難をしましょう。

積雪・寒冷期の避難！

国と北海道は、被害想定を公表した際に北海道と東北地方の『積雪・寒冷期の避難』に対して、特段の配慮を求めました。町は、厳冬期対策として、いち早く町内15カ所の津波指定避難場所に、暖房器具の増設、防寒用備蓄品の充実を図りました。

また、今年3月には地域の皆さんと消防団に協力をいただき「冬季避難行動実証訓練」を実施しました。実証訓練は、津波指定避難場所から一番遠い地点を起点として、次の3点を検証しました。

①冬の避難に際して身支度をしてから、外に出るまでの準備時間
②凍結路面における津波指定避難場所までの避難歩行時間
③避難困難者の歩行速度

この結果、概ね20分で高台への避難が可能でした。

安心・安全のために避難対策を急ぎます！

しかしながら、実証訓練では、主要道路を経路としてゆっくりとした歩みで避難をしてもらった結果、一部の地域で、屋内から玄関先に出るまでの避難準備時間、玄関先から津波指定避難場所到着までに20分以上の時間を要し、津波指定避難場所までの避難が間に合わない「避難困難者」がいることが分かりました。

その地域は「白糠地域」、「西庶路地域」、「庶路地域」の国道より南側の一部です。

町は、これらの地域において、できるだけ速やかに「冬季の避難困難者」や「逃げ遅れ」などに対する、新たな津波避難対策の検討をしており、津波避難のあり方などについて地域での説明会を行います。

被害を最小限にするために

北海道は、冬の深夜に地震が発生し、2割の人しか速やかに避難しなかった場合、白糠町では５００人の方が亡くなるという被害想定を公表しています。

一方で、地震後10分以内で準備を終えて避難することで、最大で9割も被害を減少させることができるとしています。津波から身を守る最大の対策は、速やかに高台へ避難することです。避難を早め、津波から身を守るためは、次の点について日頃から確認や準備をしておくことが大切です。

①すぐ避難できるような身支度や持出品を準備する
②すぐに屋外に出られるよう家具類の固定など転倒防止をする
③自分が避難する避難先と経路を前もって知っておく

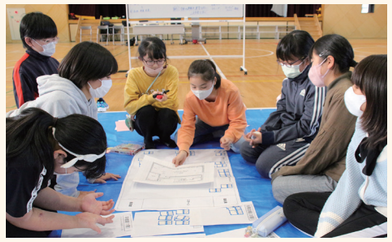
非常時に備え防災への知識を深める

白糠学園防災学習

10月31日、白糠学園の前期課程（１～６年生）は、防災の知識を深めるため同校体育館で防災学習を行いました。

防災学習は２学年ごとに行われ、３・４年生の授業では、ＮＨＫ北海道東営業センターの田渕一郎さんが番組キャラクターの「チコちゃん」の教材を使って、災害が起きた場合にどう行動すべきかを説明しました。その後、タブレットを使って白糠学園が50cm浸水したら、どのくらいの高さまで水が来るのかを視覚的に体感する「ＡＲ体験」を行いました。田渕さんは「50cm浸水したら大人でも歩くことができなくなります」と話していました。

１年生は「防災カルタ」を使って学習。絵札を取った後、その人がカルタの裏に書かれている震災や防災に関する教訓を読み上げ、災害へ備えることの大切さを共有しました。



５・６年生の授業では、防災士の資格を持つ白糠郵便局の藏本博幸局長を講師に、避難所の運営を疑似体験する「HUG（ハグ）」を行い、被災者への対応や支援を考えました。

タブレット端末の画面には、50cm浸水したときの状況が映し出されています。子どもたちの腰の位置まで水につかっている様子が分かります。